

# 福岡に棲む日々

## 福岡映画LIFE -その1- 篇

これまで九州のあれこれについて書かせていただきましたが、ネタが枯渇気味の為、今号から私の趣味にまつわるあれこれを紹介させていただきます。

という事で今回は映画にまつわるネタをお送りします。

私は物心ついた頃からよく映画を観に連れて行ってもらいました、春休みや夏休みといった長期休みの際の『東映まんがまつり』なるヒーローものやアニメ作品を集めた企画上映の鑑賞が原風景となっていました。

その他、昭和ゴジラシリーズの最後『メカゴジラの逆襲』とかこれまた昭和ガメラシリーズの『ガメラ対大魔獣ジャイガー』、『大魔神』といった特撮作品、『宇宙戦艦ヤマトシリーズ』や『銀河鉄道999』などのアニメなど本当によく観に行きました、今では暇に任せて年間80作品以上観に映画館に足を運んでいます。

鑑賞作品のおよそ9割が邦画です、残る1割のうち、韓国映画が多く、あとはヨーロッパ映画が中心です。

ハリウッド映画はハリウッド版ゴジラシリーズ位しか観ませんが、そのゴジラシリーズも段々とマーベルコミック化してきているので次以降は要検討です。

スターウォーズシリーズもディズニィによってだんだんと続いているのですが、幼年期からの流れでゴジラ同様劇場公開作品は観に行きます。

30代半ばまでは邦画・洋画問わず観ていましたが、ちょうどその頃からのとかメカが流行りだし、スパイダーマンなどの超人ハルクなどの鑑賞中、目がチラチラして頭が痛くなり、その類の作品を観るのを断念しました。

また『シンドラーのリスト(1993)』を観て以来、訳も無く人が殺されていく作品を避けるようになり、ハリウッド映画の唯一の魅力であるアクション物を観なくなりました。

そして何よりハリウッド映画は、すべてと言って良いほどハッピーエンド、映画は娯楽だからもちろんそれで良いのかもしれませんが、映画を観て色々な人生を体験するというのが醍醐味と思っているので、毎回ハッピーエンドは都合が良さそうと感じています。

さて私の主戦場、邦画についてですが、私の青春時代は角川映画全盛で角川文庫を業師丸ひろ子、原田知世、渡辺典子のいわゆる角川三人娘を主演の映画を随分と見せられました。

また、それ以外の作品についてもホームドラマの延長のような作品が多く、周りの多くの人から「どうせ映画館で観るなら洋画よね」という声が多く聞かれました。

中高生の頃は角川映ドとこい！で良かったのですが、歳を重ねてくるとさすがに物足りなくなり、20代は洋画中心の鑑賞でした。

私の中では若井俊二監督の登場前後で邦画に対する感じが随分変わりますが、若井俊二監督が登場し『Love Letter(1995)』『ランニングシューター(2001)』『花とアリス(2004)』などを観て以降、邦画にもこんなに雰囲気のある良い作品があるんだと見直し、段々と邦画作品を漁るようになり、いつしか日本の映画に素晴らしい作品がたくさんあるのに、言語も習慣も文化も違う人のドラマをわざわざ観なくても良いのではないかと思いつきました。

今はこの1月〜3月クールで放送されているTVドラマ『冬のなんかさ、春のなんかね』で監督・脚本をやっている今泉力哉が一番好きで監督で全作品とは言わないまでも駆け出しの頃のショートフィルム含め多くの作品を観ています、出世作の『愛がなんだ(2018)』や『街の上で(2020)』など上記ドラマにも通ずる今泉ワールド全開の作品は必見です。

そんなこんなで邦画中心に映画鑑賞をしているのですが、年間に80作品も観ていると1年が終わった時に印象に残っているのはせいぜい5作品程度で、カレンダーに残る鑑賞リストを見返すとこんな作品観たっけ??となります。

またすべて定価(最近は大入2000円くらい)で観ていると金額がエライことになりまして、なんじゃこりやって作品にも多く当たるので極力損した気分にならないよう、よく通う映画館は会員となり駐車場代含めても平均1300円くらいで観ています。

最後に福岡の映画館事情について少し触れておきます。  
私がサラリーマン時代に初めて福岡へやって来た頃(2005年末)は博多バスターミナルの中に日活シネリーブルや親不孝通りにシネテリエ天神といったシアター系の小さな作品専門で掛けてくれる映画館が有りましたが、次々に閉館となり、脱サラして福岡に戻って来た12年前にはミニシアターはKBCシネマくらいになっていました。

しかしながらコロナ禍直前2020年に85席×3スクリーンのミニシアター キノシネマ天神がオープンしKBCシネマと共に小さな作品を上映してくれています。

一方で大型のシネコンは東映系の「ジョイ博多」が博多駅のリニューアルの際に駅ビル(阪急百貨店内)に、続いてららぽーと福岡の開業に合わせて東宝系のTOHOシネマズららぽーと福岡がオープンしています。

ミニシアターは小倉や佐賀や大分、熊本にも存在しており、日程的に観られなかった作品が1週回った後で上映されるケースも有り、小旅行気分がちよくちよく足を延ばしています。

映画館事情で何より残念なのは一昨年の3月に戦後すぐに開館し、78年の歴史を持つ老舗の映画館「中洲大洋劇場」が開館してしまっただ事ですが、私が観に行った事のある映画館の中で最も素晴らしい劇場でした、閉館記念上映で過去の節目となる作品を週替わりで上映していて、私も数作品観に行きましたが、オーラスの78年前開館時上映作品『チャップリンの黄金狂時代』は早々にチケットが完売して最後に行くことが出来なかったのが残念でたまりません。

今回はこの辺りで筆を置きますが、次回はお薦めしたい作品の事などを書いていけたらと考えております、それではまた。



profire おぐらさん

IQ71. 🎲 🎯 🎯

倉敷生まれ博多在住

岡山離れ早20年余、放浪の末に脱サラして11年前から福岡に定住。

一人遊びに明け暮れる日々、一生懸命人生を謳歌中。



↑ KBCシネマ



← 中洲大洋劇場

